

知事記者会見の概要

日 時：令和7年7月9日（水） 10:00～10:51

場 所：502会議室

出席記者：12名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から3件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 災害用トイレカーの導入について
- (2) “明るいやまがた”夏の安全県民運動について
- (3) 台湾でのトップセールスについて

代表質問

- (1) 第27回参議院議員通常選挙について

フリー質問

- (1) 代表質問に関連して
- (2) 山形新幹線の車両故障に伴う運休について
- (3) 発表事項1に関連して
- (4) 米国の関税政策について
- (5) 発表事項3に関連して

<幹事社：山新・時事・SAY>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。毎日暑い日が続いております。県民の皆様、県内で生活しておられる皆様には、くれぐれも熱中症にならない様に対策をお願いしたいというふうに思います。

さて、市街地における1週間あたりのクマの目撃件数が10件を超えまして、県で定める基準に達しましたので、これまでの注意報から、注意喚起のレベルを引き上げまして、7月3日に「クマ出没警報」を発令しました。

クマの目撃件数は、過去に例を見ないペースで増加しており、クマと遭遇する危険性がより一段と高まっております。

県民の皆様には、山に入る際やクマの目撃情報があったところでは、音が出るものを携帯すること、市街地でクマを目撃した場合は、まずは屋内に避難して、市町村や警察署に通報したうえで、安全が確認されるまで外に出ないこと、そしてクマが侵入しないよう、自宅や倉庫などには鍵をかけることなど、お一人おひとりが身を守る行動をとっていただくよう、御注意していただきたいというふうに思います。

☆発表事項

知事

ここで私から3点発表がございます。1点目は、災害用トイレカーの導入についてです。

大規模な災害が発生した際には、避難生活の質の向上を図るうえで、衛生的なトイレの確保が非常に重要であります。このため、能登半島地震の被災地でも効果的に活用された「災害用トイレカー」をこの度、導入いたしました。

導入したトイレカーには、清潔で快適な水洗式トイレを搭載しており、全てのトイレにウォシュレットがついております。

多目的トイレには、エアコンと車いす用のリフトも備えており、誰もが安心して利用できるよう工夫されております。

また、太陽光発電や川の水を浄化してトイレ用水として使用する機能もあり、電気や水道が途絶えた状況下でも自立して運用することが可能です。

平時には、防災知識の普及のため、県や市町村が行う防災訓練等で展示するとともに、県外で大規模災害が発生した際には、現地に派遣することを想定しております。

次に、2点目は、「＼明るいやまがた、夏の安全県民運動」について申し上げます。

今月22日から8月21日までの1か月間、「＼明るいやまがた、夏の安全県民運動」を実施いたします。

夏は、帰省や旅行、海や山でのレジャーの機会が増える一方、暑さによる気のゆるみや疲

れなどから、重大な交通事故やレジャー事故の発生が多くなる時期であります。また、夏休みの解放感などから、青少年の非行やSNSを悪用した特殊詐欺、盗難など犯罪被害の増加が懸念されるところです。

この運動を通して、このような事故などを防止するとともに、青少年の健全な育成を図ることを目的として、「青少年の健全育成といじめ・非行及び犯罪被害防止」をはじめとする4つの重点項目を掲げ、安全で明るい山形県づくりを展開してまいります。

関係機関・団体等との連携・協働のもと、この運動を展開してまいりますので、皆様方の御協力をよろしくお願いいたします。

3点目は、台湾でのトップセールスについて申し上げます。

お手元に配布しておりますが、来週7月14日から19日までの6日間、私を団長として台湾を訪問し、トップセールスを実施してまいります。

今回の訪問では、教育旅行を含む相互交流の拡大や観光誘客の促進に向けて、台湾観光庁や台湾観光協会、教育旅行関連機関、航空会社などにトップセールスを行うものであります。

さらに、「やまがたフルーツ150周年」を契機とした県産フルーツのさらなる認知度向上や、県産酒等の輸出促進に向けたプロモーションを実施してまいります。

この度のトップセールスにより、台湾と本県との信頼関係をさらに深め、相互交流やインバウンドの拡大、県産フルーツや県産酒などの輸出促進につなげてまいりたいと考えております。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

おはようございます。山形新聞、稲村です。よろしくお願いします。

代表質問、参議院議員選挙についてお尋ねいたします。参院選、20日に投開票を迎える状況で、今回の選挙戦では、物価高騰対策、政治改革などが争点となって、各党舌戦を展開しています。その中で、知事が最も重視、注目している争点について教えてください。

また、今回の20日、投開票は3連休の中日にあたって、投票率の低下が懸念されています。山形県は、国政選挙での投票率が5回連続で全国トップとなっていますが、投票総参加の重要性に関する知事の認識を教えてください。

最後に、改めてになりますが、この参院選の山形県選挙区での特定の候補者に対する知事の支援スタンス、これもお尋ねできればと思います。

知事

はい。ただいま、この度の参議院議員通常選挙についての3つのご質問をいただきましたので、順次お答え申し上げます。

まず1点目でありますけども、争点ということです。この度の争点としては、物価高対策として、給付金の実施や消費税率の引き下げ・廃止、またコメの価格高騰対策、そのほかアメリカの関税措置への対応や、政治改革などがあるというふうに認識をしております。

中長期的に見ますと、人口減少や、地方創生といった課題もあるというふうに思っております。

いずれにしましても、ただいま、選挙戦真っ最中ですので、私としての、争点への言及は差し控えさせていただきたいというふうに思っております。影響が大きい小さいかわかりませんが、皆さん必死になって、今、戦っておられますので、ぜひ県民の皆さんがですね、ご自分の判断でしっかりと争点を見極めて、御判断いただきたいというふうに思います。

2点目の投票率ということであります。国政選挙における本県の投票率は、直近の5回連続で全国第1位となっております。

選挙につきましては、いつも申し上げているんですけども、一人ひとりの有権者が政治に参加するための最も重要かつ基本的な機会であります。積極的な投票参加はまさに民主主義の根幹をなすものというふうに思っております。

有権者の皆様には、ぜひ投票所に足を運んでいただき、大事な1票を行使していただきたいというふうに思います。

この度、投票率向上ということがやはり大事かと思っております。選挙管理委員会に聞いてみますと、本県出身の鏡優翔選手を起用したテレビ・ラジオスポットCMでありましたり、またインターネット・SNSを活用した若者向けの広告なども行っているということです。有権者の皆様に投票参加を呼びかけているということでもあります。

それから、ファミリーレストランのテーブル広告やチラシなどで、子連れ投票や家族ぐるみ投票の呼びかけも行っているということでもあります。

期日前投票所につきましても、前回にプラスして5か所ということで、増やして対応しているということでもありますので、ぜひ、本当に有権者の皆様には、大事な1票を行使していただきたいというふうに思っております。

できれば、また山形県が全国一の投票率になってほしいなというふうに思っております。

私の支援スタンスというものもありました。今回、5名の方々がそれぞれの党から立候補されているということでもあります。私の5期目の時にほとんどの方々から応援していただいたという経緯がございますので、今回の私の対応は、大変難しいものになるというふうに考えております。

私の後援会の皆様とも相談をして、どういうふうに対応するか熟慮を重ねてまいりたいというふうに思っております。

記者

はい、ありがとうございます。ごめんなさい、もう1点、絡んでになるかと思うんですが、

今日発表があった台湾でのトップセールスもあったと思います。時期的に参院選と重なる時期ではありますが、このタイミングで行く一番の理由っていうのは何かあるんでしょうか。

知事

理由というのはですね、観光誘客でありましたり、それから県産品の輸出促進でありましたり、教育旅行誘致でありましたりとか、さまざまな内容、チャーター便誘致でありましたり、たくさんの色んな内容を含んでおりまして、多くの関係者の皆様方と日程をずっと調整してまいりました。その結果、この時期になったということでございます。

☆フリー質問

記者

読売新聞の仲條です。よろしくお願いいたします。

参院選の代表（質問）について追加でお伺いします。くどいなと思われるかと思いますが、お答えいただければと思います。後援会の皆様と熟慮を重ねるというふうにおっしゃっているかと思うんですけれども、あつという間に20日に時間は過ぎてしまうのかなと思うんですけれども、知事としては、スタンスの表明といいますか、どうされるのかという結論はいつ頃までに出したいというお考えでしょうか。

知事

特にいつ頃までということではなくて、ずっと「もうすぐ始まるね」から始まって、「とうとう始まったね」ということで、都度都度、後援会の皆様とお話をしているのですけれども、さらにまた、どういうふうに対応したらいいかということをごですね、皆さんからお話を伺いながら、熟慮していきたいというふうに思っています。

記者

朝日新聞の斎藤です。よろしくお願いいたします。

山形新幹線の大規模な運休が続いています。知事は、7月3日にJR東日本の本社を訪ねられて、社長に対して要請書をお渡ししたということですが、改めてどんなことを要請して、それに対してJR東日本からどのような回答があったかを教えてください。

知事

はい、去る7月3日だったかと思うんですけれども、JR東日本の本社を訪れまして、喜勢社長とお会いをいたしまして、県としての要請をしまして。その内容はですね、6月17日から、かなり長きにわたって山形新幹線が運休している。1便は直結、直行があるということでもありますけれども、ほぼ運休して、福島で乗り継ぎをしないと首都圏と山形を結べないという状況になっているということに対して、ビジネスであったり、観光であったり、本当

に多くの皆さんが不便な状況になっておりますし、実際さくらんぼシーズンと重なってしまっていて、宿泊施設などでも大変な影響が出ているということを申し上げました。それで、1日も早く全車両の運行再開ということを要請したわけであります。

それと合わせまして、その運行再開までの間、何もしない、現状のままということではなく、やはり直行の本数を増やしていただきたいということも申し上げました。東京から山形へですと、朝来てそして夕方の方で帰ることができるんですけど、県民のほうは朝がないものですから、非常に不便であるというようなことも申し上げてまいりました。

本当にさまざまな影響があつてですね、県民はもちろん県全体でも大変大きな影響を受けているということで、あと花笠まつりも近いですし、お盆も近いです。そのときには帰省客でごった返すような盛況になるわけでありまして、とにかくそこまでには何としても全車両の運行再開をしていただきたいということを申し上げてまいりました。

JR東日本のほうのご回答ということではですね、「県民の皆さん、多くの業界の皆さんにご迷惑をかけて大変申し訳ありません」と、お詫びの言葉がございました。それと合わせて、ただ故障している原因の追及がまだしっかりとできていないので、安全を確保して運行することが鉄道事業者としての責任でもあるということなので、安全を度外視しては再開できないので、しっかりと安全に運行できるようになってから再開したいということをおっしゃっております。

そして、「全車両運行再開までに何もしないということではなくて、今、どういうふうにして増便できるかというようなことを検討するように指示しているところです」というお答えでありました。そういうやり取りです。

記者

ありがとうございます。そうしますと、全車両の運転再開の目途と言いますか見通しについては、その時点ではまだ全く未定という、そういう回答でしたか。

知事

はい、そうでした。

記者

知事、おっしゃったように、7月後半から夏休みに入って、お祭りとかいろんなイベントもありますし、首都圏から山形に来られる方、また、山形から別の全国に行かれる方も、鉄道を利用して行かれる方も多いかと思います。県内の経済はじめいろんなところに大きな影響が出るという懸念がありますけれども、改めて、そのあたりの知事としての所感についてはいかがでしょうか。

知事

はい。やはり、目の前の最大の、喫緊の課題というのはそこにあるのかなというふうに思っています。本当にさまざまな県民の皆さんの生活の営み、また、企業の皆さん、ビジネス界のさまざまな経済活動、あと観光もございますし、いろいろな意味で山形県と首都圏とを結ぶ山形新幹線というのは大動脈でありまして、この大動脈が止まってしまうというのは、大きな影響をもたらすということが分かっておりましたけれども、まさかこんなに長くなるとは、という思いであります。

鉄道事業者としての安全の確保というのも理解できるわけでありますけれども、本当にそれにつけても県全体の大きな損失と言いますか、県民にとっての不便、そして経済にとっての損失というようなことがあまりにも大きいので、本当に1日も早く、その故障の原因を突き止めて安全運転を再開していただきたいというふうに心から願っております。

記者

NHK、永田です。今回の選挙で14日からトップセールスでいらっしゃらないということで、前回のご自身の選挙もインフルエンザで確かいらっしゃらない時期があったと思うのですが、

先ほど、争点も挙げられないということだったのですが、投票率が年々右肩下がりに下がっていく中で、動向が注目されている知事のお立場というのを県民の方に示すというのも一つかなと思うのですが、そこはこれから言わないということですか。

知事

選挙の間はね、平時とはまた違うと思っています。平時にありましては、やはり、私がどういうふうに考えているかというようなことも申し上げますけれども、今、選挙中で本当に5人の方がですね、それぞれの主張をしっかりと繰り広げて論戦をされているわけでありまして。皆さん必死で。自分の選挙を考えてもそうなんですけど、必死で活動しているときにですね、私の立場からというようなことは申し上げないほうが、影響というものがあまりないほうがいいのではないかと、というのが私の判断です。

記者

前回の知事会見では、誰を支援するかということを表明するかどうかについても、それから誰かを支援すること自体も、これから後援会の人たちと決めますというお話だったと思うのですが、それは結局どうなったんですか。

知事

はい。7月1日まで議会に没頭しておりましたので、それまでは連絡は取り合っておりまして、けれども、ちょっとみんなで集まって議論するということまではいっていませんでした。

近々ですね、後援会で集まって幹部の皆さんに相談をしてみたいというふうに思っています。

まだそういう状況でありますので、新幹線のこともありますし、目の前に、私の県政運営のさまざまございまして、選挙のことについて今いろいろと相談を重ねるというようなところまではちょっとまだいっていないので、今後相談してまいりたいというふうに思っています。

記者

じゃあ、今の時点でお立場もご自身で決められていないし、それを表明するつもりも選挙期間中はないということですかね。

知事

後援会の方々と相談をするということです。

記者

でも、先ほど、「それを伝えることによって有権者の人たちの考えが変わるのが」っていう、考慮したいという話だったと思うので、それを伝えるということもしたくないということですか。

知事

先ほどの質問というのは、現在のさまざまな主張ですね、立候補している皆さん方の争点と言いますか、県民の皆さんに訴えておられる、そのことについて私がどれを争点として考えているかというご質問だったと思いますので、その件については「さまざまな影響が及ぶと思うのでお答え申し上げられない」と言いました。

そして支援活動、支援行動をどうするかというようなことがその後の質問だと思いましたので、それについては私の後援会の幹部の皆さんと相談をしていくということでもあります。

記者

じゃあ、この後、知事会見とかないですけど、これから表明するかもしれないということですか。

知事

はい。表明するかもしれないし、表明しないかもしれないので、そこはちょっとまだ何とも言えないということです。

記者

これは私たちの、たぶん総意だと思いますけど、14日からトップセールスでいなくなるの

であれば、残された時間は明日と明後日だと思うので、その2日間で、もし教えてくださるということであれば、納得するんですけど、今の回答だと、のらりくらり感がどうしても私の中では拭えないなと思いました。

知事

はい。記者さんのお気持ちも分からないのではないですけども、私の立場としては、私自身の5期目の選挙というのがやはり、県内のほとんどの皆様方から応援をしていただいたという経緯がありますので、非常に難しい。私の立場を、今回の選挙に対する支援スタンスを決めるのは非常に難しいものがあるというふうに申し上げております。その上で何ができるかというようなことについては、後援会の皆さんと相談をしてみたいというふうに思っています。

記者

分かりました。別件ですが、トイレカーについて教えて下さい。これは、購入のきっかけはどのようなもので、これはいつから使えて、どこに駐車というか置いておくものになるのか、また、購入に際して国の補助金などは使われているか教えてください。

知事

はい。防災訓練などで展示するとは申し上げたのですけれども、実際どこに置くか。(補足：担当部局である防災くらし安心部の次長に対して) はい、具体的に申し上げます。

防災くらし安心部次長

防災くらし安全部次長の岩瀬です。まず、トイレカーの平時ですけれども、県庁の車庫と言いますか、そちらのほうに平時は置いておくこととしております。財源ということでありまますけれども、国の起債を活用させていただいております。

知事

よろしいでしょうか。

記者

何がきっかけで購入を決めたのでしょうか。

知事

はい、やはり本県でも昨年大災害がございましたし、能登半島でもこのトイレカーが非常によく機能したということをお聞きして担当で考えたのだというふうに思っております。

今日、何かあるんですよね。記者の皆さんに。

防災くらし安心部次長

はい。すでにご案内させていただいておりますけれども、この記者会見が終了した後、11時くらいを予定しておりますが、正面のほうで内覧会と言いますか、記者さん向けの説明会を開催させていただきたいと思いますので、取材のほう、よろしく願いしたいと思います。

記者

共同通信の中村です。ちょっとしつこいんですけど、参院選のことをお伺いしたくてですね、先ほどのNHKさんのご質問でもあったんですけども、非常に対応がすごく難しくて熟慮を重ねているということ、これまでの会見でも何度もお伺いしたところではあるのですが、今回海外出張に14日から19日まで行かれるとなると、この先、ご自身が政治家として県内の現地に赴いて選挙活動をする、支援などをするというのは、おそらく難しいでしょうし、この先、公にご自身の支援スタンスを表明するという時間もおそらくあまり無いのかなということを考えると、おそらくそれはどの候補も応援しないということで、表明も公にはしないということなのかなと思ったんですけど。

熟慮しているということ、これをこれまで何度もお伺いしたところではあるのですが、外形的な事実を見ると時間もないですし、そうなのかなとも思いまして、もう1歩踏みこんだお言葉を聞けないかなと思ったんですけども、いかがでしょうか。

知事

そうですね。本当に、何度聞かれてもやはり同じようなお答えしかできないのは大変申し訳ないのですが、何ができるかなということはずっと考えていたのですが、まず私の立場で言うと、ずっと応援していただいた方から、5期目で応援していただいた方までいろいろありまして、私が白黒はっきりするというのは非常に難しい状況だなというふうに思っております。

ただ、その中でもできることは何なのかなというようなことも考えてですね、これまでも対応してきましたし、これからもうどういうふうなことができるかということについて、後援会の皆様のお話、ご意見、お考えをお聞きしていきたいというふうに思っています。

記者

河北新報の八木と申します。今の共同通信さんの質問にちょっと関連というか、関わるようなところなのですが、知事も何度も参院選の支援のスタンスというのは後援会と熟慮して決めたいということを何度もおっしゃっていて、「ああ、そうなんだろうな」というふうに思っていたのですが、具体的にどういうふうに、支援のあり方、こういうことをイメージしているみたいな、そういう知事の中の考えみたいなものというのは何かございますか。こういう支援になるんじゃないかな、みたいな見立てと言いますか、何か、こういう

のをやったほうがいいかな、みたいな。そういうものって何かあるのかどうかというのをちょっとお伺いしたいのですけれども。

知事

はい。そういったことも含めてですね、やはり相談をしてみたいというふうに思っています。具体的にどうというようなことまでは私は考えていなくて、やはり、どうことができるのか、適切な行動はどうかというようなことをですね、後援会の皆様と相談をしながら熟慮していきたいというふうに思っております。

記者

特に今のところ頭に浮かんでいるようなものも、今のところはないというような、そういうことですかね。

知事

そうですね。特にこうしたいというようなことは今のところありませんで、どういったことができるのか、またどういったふうな行動をするのが適切なのかということについて、幹部の皆さんのお考えをお聞きしていきたいというふうに思っています。

記者

すいません、日経の松尾です。ちょっと話変わります。アメリカの話。トランプ関税です。

関税25%という数字をアメリカ政府は通告してきました。一応事実上の交渉期限が8月1日ということで、まだ時間があると思うのですが、このまま25%でいく可能性もかなりあると。既にいろいろ構えをされていると思いますけど、まずは、25%の受け止めと、それから現状での県経済への影響はどれくらい出ているのか。もう1個は、今後どう構えるか。この3つを教えてください。

知事

はい。米国のトランプ大統領が、皆さんご案内ですが、日本に対して8月1日から25%の関税を課すということを発表したということについては報道で承知をしております。

これは4月に公表した日本への相互関税24%を1%上回る措置でございます。上乗せ分の一時停止期間は7月9日から8月1日まで実質的に延長されておまして、関税が発動される8月1日までは交渉の余地があるようでありますので、政府においては引き続き米国との交渉を粘り強く進めていただきたいというふうに思っております。

県としては、引き続き政府の動向を注視しながら正確な情報収集に努めますとともに、関係機関と連携しながら相談窓口での対応や資金繰り、取引拡大などの支援にしっかりと取り組んでいきたいというふうに考えているところであります。

その影響ということについては担当のほうでも聞き取りを、5月末にアンケート調査もしてそれも公表しておりますけれども、あれからまだこの関税の交渉がですね、解決していないものですから、やはり7割の方々が不安に思っているということでありましたし、その不安が現実のものとなって、徐々にですね、現実的に損害が出てくるのではないかというように非常に危惧をしているところであります。

やはり行政として何ができるのか、その業界の皆様と対話をしながら、資金繰り支援でありましたり、取引拡大と言いますかね、米国以外との商談会の促進・支援というようなことでありましたり、取り組んでいけるものはすべて取り組んでいきたいというふうに思っております。

記者

わかりました。そうしますと、台湾に今度行かれるトップセールスの中で、台湾への輸出拡大、特にお酒ですね、これなんか非常にポテンシャルがあると思うんですけど、そのあたりはかなり強力に売り込まれますか。

知事

そうですね。当初は県産フルーツ150周年ということで、農産物もですね、しっかり考えていくというふうにしておりまして、それもありますけれども、県産酒ということについてもしっかりとPRして取引拡大を目指していきたいというふうに思っています。

記者

すみません、再度、読売新聞の仲條です。

山形新幹線の関係に戻ります。不具合の発生で区間運休が続いている状態です。それでJR東日本の対応について、一部の県民の間では不信感が溜まっているのではないかというふうに感じています。例えばですね、ダイヤが乱れたあとの時刻表をJR側が全然示してくれなくて、むしろ山形県のみらい企画創造部が作った時刻表というものをJR側に示して、それを(JR東日本が)「使わせていただきます」というような格好になっているとかですね、諸々聞いていくとなんだか山形県というものがそんなに大事にされていないんじゃないかというような感じも受けてしまう部分もあるかと思います。

知事がですね、喜勢社長と面会されてお話を聞かれたと思うんですけども、JR側からは誠意と言いますか、対応については誠実なものが期待できるのかどうか、そのあたり、知事のお感じになられた部分というのはいかがだったんでしょうか。

知事

そうですね、私としましてはやはり県民の皆様の中の状況、またお気持ちというようなことも代表してですね、要請に行ったというふうに思っております、時にはちょっと強い、

激しい言葉も申し上げました。「継子扱いされているのではないかとやっている県民もいます」というようなことまで申し上げたんですけども、そういうことについてはお伝えをしてまいりました。

JRのほうもですね、みらい部のほうでも一生懸命業界の皆さんと一緒に頑張って乗り換え、乗り継ぎというようなことについて発信をしましたけれども、JRさんでもそのあと同じような発信をさせていただいているというふうに承知をしております。

そして誠意というようなところでありますけれども、喜勢社長からはですね、観光というような点でも非常にご迷惑をおかけしているというお気持ちがあったということで、首都圏で山形県産品の物産市と言うのか産直と言うのか、そういったことも開催しますし、あと、東京駅に降り立って、「お、山形県のことをPRしてくれているな」と思えるくらい、山形県のことをPRしていきたいと思っていますというお話も聞いてまいりましたので、まずできることを一生懸命やっていただけのようなだなどということは私も感じてまいりました。

本当に県民の皆さんが一番不便で、ご迷惑をおかけして、私自身も申し訳ないと思っておりますけれども、やはりJR東日本のさまざまな誠意ある対応を信じてしっかりと、1日も早く運行再開していただきたいというふうに思っております。

記者

テレビユー山形の倉内と申します。よろしくお願いします。

私からもしつこいようで大変恐縮なのですが、参院選についていくつかお伺いできればと思います。何度もすいません。

知事のほうで先ほどから繰り返し後援の幹部と熟慮して今後のスタンスを考えるということですが、その熟慮をするポイントとしては、どのようなところにポイントを当てて熟慮したいのかというのをまず1点お伺いできればと思います。

もう1点は、やはり県のトップとして、この選挙を通じて国政にどのように向き合うべきかというお考え。あともう1点は、知事は繰り返し今まで「恩返し」という言葉を大切にされてきているなど個人的には思うのですが、その恩返しという意味では、やはり恩返しをするにしても今が絶好のチャンスかと思われるのですが、改めて今、知事の心の中には恩返しという気持ちは変わらずあるのかという、この3点お伺いできればと思います。

知事

はい、ではお答えいたします。1点目のそのポイントということでもありますけれども、そうですね、特にこれというようなことはちょっと思い浮かびません。やはりこれまで私の選挙でどのくらいお世話になったかというようなことはやはり1つのポイントにはなると思うんですけども、それは3番目の恩返しというのと重なってくると思います。ただ、先ほど申し上げましたように、1期目とかとだいぶ違ってきておりまして、5期目の選挙というのがあって、ほとんどの皆様から応援していただいたというようなことがありますので、やはり態度

を白黒はっきりつけるのは難しいなど。恩返しという気持ちは変わらずございますけれども、それだからこそ大変難しい状況だなというふうに捉えているところです。

あと、国政ということでもありますけれども、今回の選挙は非常に重要な選挙だというふうに思っています。県内がどういうふうに、結果としてなるのか、また、日本国全体でどういう結果が出るのか。参議院の、一部選挙ではありますけど、結果によっては非常に、国政にものすごく大きな影響をもたらすというふうに思っていますが、どのような観点で、あるいは視点で、お考えで、県民の皆様、国民の皆様がですね、どういった人を選んでどういうふうになるかということは、そこは私が関知できることではないので、その結果どういうふうな政権が成立するのか、そういったことはしっかりと注視を続けてですね、私の立場としてはやはり政府与党とのつながりと言いますか、山形県の状況というものをしっかりと申し上げて、山形県の発展、県民の皆さんの幸せということについて、私はこの2つが原点、私のミッションだと思っていますので、それを実現するための行動を、どのような政権になろうともしっかりと中央政府と連携してしっかりと取り組んでいきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。その恩返しの部分なんですが、やはり白黒つけることは難しいということですが、逆に白黒をつけることで恩返しになることもあると思うんですけども、それを踏まえたうえでもやはり白黒つけることは、今は難しいという認識でお間違いないでしょうか。

知事

ええ、言葉では簡単なようではありますが、でもやはり1人の方に恩返しすれば1人の方には恩返ししないということになりますから、両刃の刃であります。非常に難しい状況だなと思っています。

記者

YTSの川口と申します。

同じく選挙の話になってしまうのですが、前回の衆院選のときは、知事は原田（和広）さんの事務所だったりとか、自民の事務所とかを回られたと思うんですけども、今回の参院選でも台湾に行かれるまでの間で衆院選のときと同じような事務所の訪問など考えられていたら教えていただきたいのですが。

知事

はい。そうですね、今、具体的なことまでは考えておりませんで、まず幹部の皆さんと話し合いをしてご相談をしてみたいというふうに思っておりますし、日中はもうびっちり公務がございましてちょっと動けないかなというふうに、目の前の公務にまい進するという

ことにしたいというふうに思っています。

記者

さくらんぼテレビの鈴木と申します。

すいません、私からも参院選について1つだけお伺いさせていただきたいんですけど、先ほどから後援会の方と話を重ねるということだったんですけども、具体的にどういった話を重ねられるのかというのを少しお伺いできたらと思います。

知事

そうですね、そういったことについてはなかなか申し上げることは難しいかなというふうに思っています。

やはり参院選のこの度の対応ということで、それぞれの皆さんのお考えをお聞きしたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。すみません、新幹線のほうに行ってしまうんですけど、新幹線がここからまた更に運休が続くとなれば、県が何かこれから対策を取るであつたりとか、対応することなどは考えていたりしますでしょうか。

知事

そうですね、やはりこれまで、その運休になってからですね、山形県への来県の方法といったことについては発信をしてまいりました。そして観光業界の方々にもですね、一緒になって発信をしようということで活動してきたというふうに思いますし、あとJR東日本へはみらい（企画創造）部の部長も何回も行きまして、また私も議会が終わってから行きました。国交省にもみらい部部長が行っております。できることをやっているわけございまして、これから何ができるか考えて、やれることはしっかりやっていきたいというふうに思っています。